

2012年10月3日

国土交通大臣 羽田 雄一郎 様

- ・下川自然を考える会 会長 千葉永二
- ・サンルダム建設を考える集い 代表 渋谷静男
- ・環境ネットワーク旭川地球村 代表 山城えり子
- ・大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男
- ・旭川・森と川ネット21 代表 平田一三
- ・(一社)北海道自然保護協会 会長 佐藤謙

自治体首長からなる検討の場を、ダムに批判的委員も含めた委員会に改組して、サンルダムの再検証を行うよう強く求めます

9月25日、北海道開発局は、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領に基づき検討した結果、サンルダムを継続することに決定した」ことを明らかにしました。

北海道では石狩川に次ぎ、国内で第4位の長流である天塩川(256km)は、北海道遺産に指定されています。その支流の名寄川に注ぐサンル川は、道内でも有数のヤマメが豊富な川として知られています。サクラマスの子魚であるヤマメが多いことは、サンル川に多数のサクラマスの産卵場があることも意味しています。サクラマスは、富山の押しずしの食材でもある高級魚ですが、河川環境の悪化に伴い、近年漁獲高が徐々に減少しています。サンル川にダムをつくることは、サクラマス資源に重大な悪影響を与える問題です。私たちは、美しい河川環境を悪化させて、サクラマス資源に重大な悪影響を及ぼすサンルダムについては、その必要性について真剣な検討が必須であると考えて活動をしてきました。今回の北海道開発局のサンルダム継続の決定にいたる過程は、その真剣さは皆無で、無責任な対応であったと私たちは厳しく批判しています。

北海道開発局は、7月31日に開催した第五回検討の場において、学識を有するもの、関係住民および一般市民から意見を募集することを決め、最終案を作成するにあたり、「パブリックコメント、関係住民及び学識経験を有する者等からの意見聴取を行い、さまざまな観点から幅広いご意見を頂いた。これらのご意見を踏まえ、本報告書(素案)の修正等を行った。」と述べています。しかし、開発局は、学識を有する者と一般市民からの意見に対する回答(開発局の言う「考え方を示す」)を出した日に、サンルダム継続を明らかにしました。これでは、回答の妥当性を吟味することを許さず、いわば独断で決めたといっても過言ではありません。実際に、別紙:「批判的意見に耳を傾けない開発局の回答について」、に明らかにしているように、多くの意見に対して、回答をしていないものや、回答はあっても真摯にむきあっていません。

このようなパブコメに対する開発局の一方的回答では、民意を聞いたということにな

りません。「広く意見を募集します」と言いながら、「ダム継続が先にありき」として、とりわけダムに批判的な人たちの意見を無視して、ダム継続を決めたわけです。

5回開催された検討の場の委員は、すべてサンルダム建設推進の立場の人たちです。今回の検証は、1) 検討の場においてダムに批判的意見の委員を配置せず、2) 意見募集をしながら、ダムに批判的意見は無視して、行われました。このような片側だけの考えの持ち主による検討会で、有益な検討結果が出されるとは考えられません。

私たちは、繰り返し旭川開発建設部と意見交換を求めましたが、特定の団体と会わないと言って拒否しながら、サンルダム建設を推進している天塩川治水促進期成会の人たちと会ったことは新聞報道で明らかでした。

これらの経緯は、北海道開発局が民主主義をまったく理解していない組織であることを示しています。

北海道開発局が1998年に流域の約5,000世帯に行なったアンケートでは、洪水・土砂災害に対する安全性について、安全だと思う(55%)・ある程度安全だと思う(34%)で、安全性について心配していない割合が89%もありました。洪水対策として具体的に進めてほしいことは、河岸保護工(37%)、堤防の完成(25%)、内水対策(16%)、河道の掘削(15%)で、合せて93%が河道の改修などと内水対策を望んでいて、ダムの整備の要望は7%に過ぎませんでした。北海道開発局がサンルダム事業に固執するのは、自らが行なったアンケート結果に示された民意も大切にしていないことを示しています。

北海道開発局に勤務する人たちは国家公務員です。憲法15条は、「公務員は全体の奉仕者であって、一部の奉仕者ではない」と述べています。ダム推進派とだけ会う北海道開発局は公務員にあるまじき組織となっています。

民主主義のポイントの一つは、何が正しいか正解がわからないから、みんなで多様な意見を出し合って、議論をして、より正しい答えを導き出していく、というものです。議論の過程がとても重要であり、自分とは異なる意見を尊重し、お互いの努力で合意を形成することが重要です。このような過程を無視した今回のサンルダム継続決定は、民主主義的とはいえませんし、したがって、よりよい解答が出されたとは言えません。私たちの考える検証すべき課題を、別紙：民主的な良識あるサンルダム建設の再検証を求め、に纏めましたので、参考にしてください。

私たちは、民主主義的でない再評価実施要領を取り決めた国土交通大臣に、このような再評価実施要領を撤回し、ダム建設について異なる意見をもつものが真摯な議論をしてよりよい合意を得られる新たな検証の場の設置と、その検証の場におけるサンルダム再検証を求めます。